

One-Bo 利用インタビュー

株式会社エニバ様





株式会社エニバ

代表取締役CEO

山崎 泰晴 様

株式会社エニバ

株式会社エニバは、宮城県仙台市に拠点を置きWebマーケティング支援事業を行っている会社です。

インターネット広告運用サービスから、Webサイトの制作、また高専生向けの学習塾、『ナレッジスター』の運営も行っています。

「東北をリードする会社」を創るため、今後も東北地方を中心に拠点を展開し、人を惹きつける魅力的なランドマーク企業を目指して、日々、地域の発展へ貢献していきます。

導入のきっかけはYouTubeの企画でオフィスの在り方を見直したこと

株式会社エニバ(以下:エニバ)では、高等専門学校の受験から卒業までをサポートする学習塾『ナレッジスター』を運営しており、映像授業形式で生徒に講義を行っています。オフィスには部屋が3つありますが、映像授業を行う場所、社内会議をする場所、BtoBで商談をする場所が混在しており、導入前は社員が仕事に集中できないという問題がありました。

そんな時、自社が運営しているYouTubeチャンネル「東北のエニバ社」内の「快適なオフィス選手権」という企画で個室ブースの存在を知りました。社員が当時のオフィスに課題を感じていたことを知り、個室ブース導入の検討を開始しました。



決め手はサイズ感。室内の居心地の良さがお気に入り

他社製の個室ブース導入や、新たに施工して部屋をつくる案もありましたが、価格感とブース内での居心地の良さが決め手となり、最終的に One-Bo を購入することとなりました。実際に使用してみて、個人的にはモニター、ノートPCにおいても資料を広げられるようなスペースが気に入っております。また、One-Bo 1.20のサイズは中が広いので個室ブース特有の反響音も気になりません。

社員がオンライン会議をする際、まず埋まるのが One-Boです。毎日、午後には誰かが必ず使っています。学習塾も運営していて静かな環境での配信が必須なので、講師が1日中ブースに入りっきりの時もあり、社内需要は極めて高いと思っています。

業種問わず様々な人に One-Boを使ってほしい

昨今のコロナ禍でオンライン会議ツールを使用したビジネスが当たり前になりましたが、コロナの収束後でも、オンライン会議ツールは継続して必要になっていきます。それに合わせて One-Boのような個室ブースの需要もますます増えていくように思います。

One-Boはビジネスシーンを想定して生まれたとのことですが、これからは民間企業だけでなく自治体や街中のカフェなど、働く人以外も One-Boを使う日が来るのはそう遠くないのではないのでしょうか。